

いずみ



同窓会創設

50周年記念

The fiftieth anniversary

自主創造
真剣力行
和衷協同



〈創設50周年記念会報〉

The fiftieth anniversary

い ず み

日本大学鶴ヶ丘高等学校同窓会 創設五十周年記念会報誌

◆ 特別寄稿

徳山 龍明

(日本大学生物資源科学部 学部長)

◆ ご挨拶

名誉会長 川瀧 幸一

(日本大学鶴ヶ丘高等学校 校長)

会長 阿部 栄介(昭和五十五年卒)

◆ 寄稿

小林 貞二(昭和二十七年卒業)

砂野 範之(昭和三十八年卒業)

伊江(旧姓/工藤) 有可里(昭和五十年卒業)

小市 誠・星野 直人(昭和五十八年卒業)

千葉 菜々子(平成二十年卒業)

小野崎 大地(平成二十二年卒業)

◆ 創設後の五十年(年表)

◆ 情報交流版

◆ 同窓会関係のご案内

日本大学鶴ヶ丘高等学校同窓会 創設五十周年記念寄付のお願い

日頃は日本大学鶴ヶ丘高等学校同窓会に対して数々のご高配ご支援を賜り心より厚く御礼申し上げます。

さて、同窓会では同窓会創設五十周年を迎えましたが、会員相互のさらなる親睦向上と母校の発展に協力すべく、複数の五十周年記念事業を推進する運びとなっております。

つきましては、各事業の実施にあたり、趣旨にご賛同いただける方に事業に資するための寄付を募らせていただきたく存じます。

ご賛同いただいた各位には、心より感謝申し上げますとともに、寄付者のご氏名を本会広報等で公表させていただければと存じます。(公表を望まない場合は匿名とさせていただきます)

末筆ではございますが皆様の今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

■ 募 金 要 項 一口 2,000円

■ 募 金 期 間 2010年4月1日～2013年3月31日

- 募金対象事業
 - ・同窓会五十周年誌、同動画版の編集
 - ・母校への記念品贈呈
 - ・記念式典、祝賀会開催
 - その他、趣旨に則った事業

■ 御申込み方法

以下のお振込先宛にお願い致します。

口座名称：日本大学鶴ヶ丘高等学校同窓会

口座番号：00150-4-613083

■ 備 考

◎寄付者の氏名・名称・金額等は本会広報等で公表させていただきます。

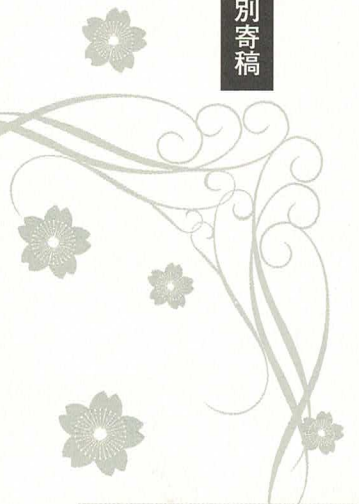
(ただし、寄付者が公表を望まない場合には匿名と致します)

◎寄付金等の用途については本会所定の会計監査を受け、総会の決算報告にて報告させていただきます。

◎本会への寄付行為は税法上の寄付金控除の対象となりませんのでご了承ください。

◎上記含め、寄付金に関しての規約を本会ホームページに記載致します。

特別寄稿



同窓会創設五十周年を祝して
日本大学生物資源科学部長
徳山 龍明

日本大学鶴ヶ丘高等学校同窓会が創設50周年を迎えられましたことを生物資源科学部長として、また卒業生のひとりとして心からお祝い申し上げます。

鶴ヶ丘高等学校は昭和26年、生物資源科学部の前身である農獣医学部の併設校として創設され、平成13年に50周年を迎えております。同窓会はそれから8年を経て創設されたと聞き及んでおります。わたくしは昭和34年に本校を卒業した8回生です。

創設50周年史稿「飛翔」のなかで、本校の発展に長年にわたり貢献された山内二夫氏（元生物資源科学部事務局長）は、昭和37年当時のキャンパスの様子について「焼け跡のバラックのようなオンボロ木造校舎」と述懐されております。諸先輩の幾多の

ご尽力のもと、新校舎の建設が逐次おこなわれ、現在のように整備された教育環境が整いました。それに応えるかのように生徒の学力向上が図られ、近年は日本大学付属高校統一テストでは、常に上位を維持しております。この間の教職員の並々ならぬご努力と同窓会の皆様のご支援に対しまして深く敬意を表するものであります。

本校の校訓のひとつに日本大学の建学の精神「自主創造」があります。この教育理念は社会が求める人材の育成にあつての基本であります。本校の更なる発展は、今後とも母校愛を基盤とした同窓会のご理解とご支援なくしては適いませぬ。同窓会の益々の発展を祈念いたしましてお祝いのごことばとさせていただきます。

「」挨拶

同窓会設立50周年を祝して



日本大学鶴ヶ丘高等学校 校長
川瀧 幸二

同窓会創設50周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。本校は、昭和26年（1951年）に日本大学農獣医学部（現在の生物資源科学部）の併設校として誕生し、今年で59年目を迎えました。同窓会が設立された1960年頃は、時の池田内閣の所得倍増計画のもと、岩戸景気と呼ばれた高度経済成長時代でありました。その中で、メートル法の実施や、テレビ局が相次いで開局し、「家付き・カー付き・ババ抜き」という言葉が流行ったように、急速に核家族化が進行しました。そして、近年の少子化が進む中、多くの先達の努力もあり、本校は「自主創造」・「和衷協同」・「真剣力行」の校訓のもと、地域に根ざした学校として、多くの受験生から入学したい学校として着実な歩みを続けています。

現在、校舎の耐震補強とトイレ・教室・廊下などのリニューアル工事もほぼ終了し、平成22年度の新学期には机・椅子を全面交換。さらに、音楽室・美術室の移設とグラウンド内の研修棟を建替えた後、グラウンドを人工芝にするなど、教育環境の更なる充実を推進しています。そのうえ、本校には、活力溢れ有能な若い教員が大勢おりますので、これからも益々隆盛していくことと確信しております。

最後になりますが、同窓生の皆様には、今までの本校へのご協力に感謝申し上げますとともに、開校以来3万名に達する卒業生が、各分野で活躍されていることは、私達教職員一同にとって喜ばしい限りです。今後、会員の皆様には、より一層の母校へのご協力をお願いするとともに、同窓会が更に発展されることを祈念申し上げます、お祝いの挨拶とさせていただきます。

ご挨拶

同窓会創設五十周年によせて



昭和55年卒業
会長 阿部 栄介

創設五十周年の節目を迎える同窓会は、卒業生、歴代の先生方、並びに学校関係の多くの方々のお力で、活動の輪を広げ、半世紀の時を刻んでまいりました。

今回、その歴史を振り返ろうと、記念誌を発刊することになり、先輩よりお借りした資料の中に『鶴の如く気高く、丘の如く展望広く明るくあるようにとの希望を込めて、日本大学鶴ヶ丘高等学校と名乗る』との一文を見つけました。思いがけず、当時の先生方の熱い思いに触れたのですが、母校は、その名の由来に恥じる事なく羽ばたき続け、同窓会もまた発展してきたのです。

会の活動を通して、常に感じるのですが、『同窓会』は、世代も環境も、全く異なった方々と知り合

う機会であり、人生においても、素晴らしい宝物となりえるのだという事です。

実際、自身を振り返ってみても、諸先輩方の経験談は、人生の指針となり、後輩の方々との交流は、新たな発見と驚きをもたらしてくれています。そのどれもが、私の大きな財産となっていくことでしょう。

五十周年を機に、これからも、卒業生の一人として、母校と同窓会のさらなる発展のお手伝いができるよう、頑張っていきたいと考えています。

学校、桜園会ともさらに良好な関係を築いていきたいと思えます。同窓会は卒業生皆様のお力を必要としています。

今後ともご指導、ご鞭撻をいただきたくよろしく
お願い申し上げます。

同窓会創設
50周年記念寄稿

同窓会創設50周年を記念して、

本校をご卒業された各年代の方から

50年を振り返つてのメッセージを頂戴しました。

ぜひ当時を思い起こしただきながら

お読みいただければと存じます。



アリーナ(体育館内)



図書館前広場の太陽電池時計

寄稿



昭和27年卒業
小林 貞二

The fiftieth anniversary

同窓会創設五十周年によせて

同窓会創設五十周年、心から御祝い申し上げます。

早いもので卒業して五十数年が立ち、振り返ってみると、「鶴高」誕生の経緯が思い起こされます。昭和二十五年、東京獣医大学と日本大学農学部が合併して、日本大学農獣医学部が誕生。私は当時、東京獣医大学付属高校に在学しており、翌年に合併で開校した日大鶴ヶ丘高校の生徒になりました。そして二十七年に卒業して、一期生です。二期生だけが男子校で、翌年から男女共学校となりました。私たち二期の卒業生は二十数名です。

高校生活ははるか昔になりましたが、大学の空手部に仲間と入部して活動したことが、現在までの私の人生の基礎となっています。「礼に始まり礼に終わる」を守り、今でも道場「練武会」の活動は続けて

います。

同窓会は昭和三十四年十月十八日に誕生しました。世田谷区民ホールに、小国校長先生(当時)はじめ約500人が集まり盛大に結成されました。鶴高は素晴らしい発展をとげ、当時の卒業生は1300人ほどになっていたと思います。鶴高の名前ですが、当時大学が丘の上であり、その下が窪地で鶴が来ていました。「鶴ヶ窪高校」の案もあったのですが、窪より丘がよいということで「鶴ヶ丘高校」となりました。

同窓会設立五十周年を迎えた今、多くの思い出が走馬灯のように回っており、感慨深いものがあります。

寄稿



昭和41年卒業
砂野 範之

The fiftieth anniversary

同窓会創設50周年に想う

私が鶴ヶ丘高校に入学したのは昭和41年。団塊の世代といわれ、一学年17クラスで二クラス65名位の編成であった。共学とは名ばかりで、女子は一学年20余名と男子校と変わらぬ状況。鶴ヶ丘の校舎や施設が立派に整備されていたのは我々の時からである。

他大学の受験に失敗した私は日本大学文学部国文学科に入学し卒業した。就職は、小学館の嘱託や東京ヒルトンホテルの内定を得ていたものの、父が果たせなかった教職の道を選択した。横浜の日大高校で14年お世話になり、豊山女子高校で9年勤務、17年前に母校に転勤してきた。名実ともに共学校に、また入試の偏差値も上昇し、制服も詰襟ではなくなり大きな変容を遂げていた。

母校に転勤して「失敗」したと

感じた。それは高校時代にお世話になった徳富先生や内田先生に頭が上がらなかったから。現在は両先生ともめでたく定年になられ、今、自分自身が定年に近づいている。そして両先生の教育姿勢を知らず知らずなぞっている気がする。

鶴高に赴任して同窓会担当の一員となり、今日まで、三宅宗文、阿部勝太郎、阿部栄介各会長及び役員の方々を中心とした同窓会活動をつぶさに拝見してきた。

それぞれ大切なお仕事の合間を縫って、プライベートな時間を削って、同窓会のためにご尽力する姿を目撃してきた。

こうした人々の地道な努力があるからこそ50周年であることを忘れてはならない。

寄稿



昭和50年卒業
伊江 有可里
旧姓 工藤

The fiftieth anniversary

「りかに冠を正さず」で思い出すこと

1年生の時、クラスで集団カンニングということがあった。担任に数名ずつ呼び出されて「したか？しないのか？」を尋問されることになった。答案用紙で「目瞭然だった筈だが、口裏を合わせ誰も正直には言わなかった。」

担任の先生は「君たちを信じる」とまで言い、中国の故事「りかに冠を正さず」を引用し不問となった。

「りかで冠をかぶり直すと、実を盗んでいるかと思われるので、冠を直してはいけない」という意味で、「疑われることをしてはいけない」と論じられた。その時の先生は少し悲しそうだった。今思えば、正直に言うてほしかったのだと思う。

ただ、長いこと「りか」を勘違いしていたというオチが……。 「りか」は「梨花」？ いや、実の話だから「梨下」？ いずれにしても「梨」

しか思い浮かばず、「梨下に冠を正さず」、貧困な語彙からそう思い込んでいた。

年を重ねるうちに花が好きになった。そして「りか」は「梨下」ではなく「李下」という、目から鱗のことがわかった。李はスモモで、英語ではプラム。長い間、梨畑を見てはちくり痛んだ心は……何だったんだろ！ な気分。

近所に梅のような桜のような花が咲く並木があり、それが「李(スモモ)」であることがわかった。

あの先生は、お元気だろうか？ 卒業して30年以上も経って、遅まきながらその故事を正しく理解し、スモモの花を見る度にそのことを思い出す。そして先生のその頃の思いや悲しみが分ったような気がする。

寄稿

昭和58年卒業
小市 誠
星野 直人

The fiftieth anniversary

青春時代を振り返り……楽しかった鶴高時代

昭和55年4月に、鶴高に入学し、ちょうど30年経ちました。その頃の鶴校は、制服は……「中ラン、ズンドウ」、髪型は……「アイパーのサイドバック」、また、大人びた人は……「タバコ・マージャン」という様な個性的な生徒が多く、東京の中でも、かなり目立った高校だったと思います。また、クラブ活動では「応援団」という他校にはない部活があり、諸先輩の方々は他校とのコミュニケーションと親睦を深める！？のために、明大前のホームでストリートファイトを繰り広げられていたのを思い出します。

そんなバンカラな生徒も大勢いました。が、学校全体の雰囲気としては男女共学で、全生徒が学生生活をエンジョイしている、和気あいあいとした楽しい学校でした。

先生も個性的な方が多く、特に生物の池田知昭先生には、小生も

大変お世話になりました。

頭髪検査で捕まった時などは、生物室は「理髪店 バーバー池田」に早変わりし、池田先生が楽しそうに、バリカンで生徒を「坊主頭」にされていたのを思い出します。

また、生徒が高校生らしからぬ行動をした時は「スキンシップ」と称する生活指導をして頂きました。

ご指導の後は、甲州街道の「ラーメン大王」で、ラーメンをご馳走になりましたが、口の中が切れていて染みるため食べることが出来なかった事も、今では懐かしい思い出です。

人生を振り返り、高校時代の3年間を、日本大学鶴ヶ丘高校で過ごし、先生、諸先輩方、後輩達、そして、同期の友達と出会う事が出来て、本当に楽しい人生を歩むことが出来ていると思います。

寄稿

2012年へ

日鶴の門をくぐる。日鶴生としてではなく卒業生として。ちょうど6時限目が終わったころだろうか、教室からそろそろと生徒が出てくる。「こんにちは〜」

一人の生徒が私に挨拶をしてくれた。その瞬間、「日鶴は私のいた頃と何も変わっていないな」とポツと心が暖まるような気がした。またそれとともに、その生徒が身にまとっていた新しいデザインの制服が時の流れを感じさせ、少し切ない気持ちになった。

そして私は生徒たちの流れに逆らうかのように教室へと向かった。二年前の思い出を噛みしめながらゆつくりと廊下を歩いた。そのとき、私の目の前を生活指導の先生が横切った。思わず私はかつてリボンが着いていた首元に手が動いた。少し後になってから「あ、もう服装で注意されることは無いんだった。」と気付いた。

そのあとも『久しぶり！元気に



平成20年卒業
千葉 菜々子

The fiftieth anniversary

寄稿

鶴ヶ丘高校に対する想いと今後の抱負

こんにちは。私は日本大学鶴ヶ丘高等学校の第41期生徒会長を務めました小野崎大地です。同窓会の方々には卒業式や文化祭など様々な所でお世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。さて、私はこの三年間日本大学鶴ヶ丘高等学校で生活して学んだことがあります。

それは、最後まで諦めずに頑張りが続いたら結果は必ず着いてくるということなのです。

昨年度私たち第41期生徒会は40年間開催されていなかった体育祭の復活を果たしました。この行事を復活させるにあたって様々な障害がありました。それは何もかもがゼロからの挑戦で分からないことだらけで具体的にやるべきことが分からず、役員内で意見の衝突が絶えなかったこと。更に、豚インフ



平成22年卒業
元生徒会長
小野崎 大地

The fiftieth anniversary

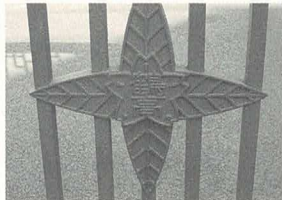
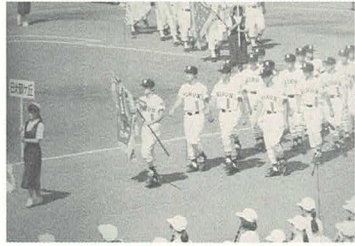
してたか？」と先生が教室のドアからひよっこりと顔を出し言った。まだ覚えていてくれたんだと嬉しくなると同時に日鶴の先生にはとても恵まれていたなと感じた。テスト勉強に遅くまで付き合ってくれ、私たちのためだけにプリントまで作ってくれた先生、進路で悩んでいるときに相談に乗ってくれた先生、私の一方的な意見や我儘や不満を全て受け止めてくれた先生。学問の師として人生の先輩として、また部活では技術を教えるコーチとして導いてくれたたくさんの先生たちのおかげで今の私が存在するのだと思う。また、生徒一人一人の人生に深く関わる「教師」という仕事の魅力をも教えてくれた。

そして何年後かの春、あまり高くないヒールと紺のスーツを身にまとって再びこの日鶴の門をくぐりたいと思う。

ルエンザによる休校の可能性。そして、なにより在校生の体育祭に対するやる気があまりなかったこと。このようにたくさんの障害がありました。役員や教職員の方々の協力を経て無事大成功を果たすことができました。後日、体育祭のアンケートを取った時に「体育祭にすごく満足した」と答えてくれた生徒が90パーセント以上出た時には諦めずにみんな頑張ってきたことに良かったと思いました。

日本大学鶴ヶ丘高等学校の三年間は私にとって忘れることのないものとなりました。この経験を将来に生かしたいと思います。まだ自分になが出来るか分かりませんが、微力ながら鶴高の後輩達の為役にたてれば嬉しいです。今後ともよろしく願います。

年	同窓会の出来事	年	学校の出来事
昭和53年	休眠中同窓会の為の同窓会準備委員会設立の為の会合開催	昭和26年	東京獣医畜産大学附属高等学校を 日本大学鶴ヶ丘高等学校に改称認可
昭和54年	母校講堂にて同窓会総会開催	昭和28年	日大教授松葉重雄博士初代校長に就任
昭和55年	石和田博昭が同窓会会長に就任 新入会員(卒業生)へ同窓会より記念品を配布 同窓会より母校全国大会出場クラブへの 祝い金制度を制定 同窓会会報誌発刊	昭和29年	日大教授小国秀男博士校長(事務取扱)に就任
昭和56年	新入会員(卒業生)へ同窓会会則及び 名簿配布 母校創設30周年記念にて同窓会より 寄贈と同窓会名簿発刊	昭和30年	世田谷区下馬より杉並区和泉に学校移転 日大教授小国秀男博士第3代校長に就任 校舎1号館竣工
昭和61年	三宅宗文が同窓会会長に就任	昭和38年	日大教授長谷川了博士第4代校長に就任
平成2年	第72回夏の全国高等学校野球 選手権大会甲子園出場 桜園会と同窓会で後援賛助金寄贈と 応援団を結成し応援活動を甲子園球場で行なう アメリカンフットボール部全国大会出場 応援活動賛助金寄贈と応援活動行なう 母校学園祭へ同窓会PR室を開設し 歴代卒業アルバムを展示し名簿整理等行なう 阿部勝太郎が同窓会会長に就任	昭和39年	校舎2号館竣工
平成5年	阿部勝太郎が同窓会会長に就任	昭和41年	校舎3号館及び体育館竣工
平成7年	阿部勝太郎が同窓会会長に就任	昭和42年	日大参事出口忠第5代校長に就任
平成13年	学校創設五十周年記念にて同窓会名簿発刊及び 学校エントランスに起き時計台を寄贈	昭和43年	芸術課程(美術科・音楽科)新設
平成18年	木村国臣が同窓会会長に就任	昭和46年	芸術課程音楽科校舎竣工(5号館) 創設20周年記念式典挙行・ 校歌制定・記念誌発刊
平成20年	第90回夏の甲子園に出場 同窓会でも応援団を設立し寄付及び 甲子園にて応援を行なう 阿部栄介が同窓会会長に就任	昭和47年	芸術課程美術科校舎竣工(6号館) 20周年記念館竣工 (温水プール・武道館)
平成21年	阿部栄介が同窓会会長に就任	昭和49年	日大教授齋藤義蔵博士 第6代校長に就任
		昭和50年	
		昭和51年	研修館竣工
		昭和54年	研修寮(現至誠寮)改築
		昭和55年	吉原恒治教諭第7代校長に就任 文部省より研究開発校 (演劇)の指定を受ける
		昭和56年	創設30周年記念式典挙行・記念誌発刊
		昭和61年	山川勇教諭第8代校長に就任
		平成元年	図書館(鉄骨造地上2階615.3m)竣工
		平成4年	日大教授松坂泰明博士第9代校長に就任
		平成11年	石川泉教諭第10代校長に就任
		平成13年	遠藤重太郎教諭第11代校長に就任
		平成14年	創設50周年記念式典挙行・記念誌発刊
		平成15年	図書館改修 (AV機器設置・マルチメディア対応)
		平成17年	片倉芳和教諭 第12代校長に就任
		平成20年	川瀧幸二教諭 第13代校長に就任 物理室・談話室・ 記念館屋内プール 第2期改修工事竣工 制服デザインを変更



思い出フォト



▲竣工(昭和39年6月)当時の2号館(正面左)



▲校舎(中庭から)



▲昭和58年卒業の星野直人さんが書かれました。(11ページ参照)



◀校歌制定時の20周年記念式典での発表演奏

情報交流版

★昭和43年卒業生 同期会を開催します

6月5日(土)同窓会創設50周年記念の懇親会にて、43年卒業の同期会を開催します。ぜひ多数の方のご出席をお待ちしております。

会長 伊藤紀雪 (連絡先/090-7016-8343)

★昭和54年E組(担任:体育の原弘吉先生)クラス会のお知らせ

6月5日(土)に学校で開催する同窓会創設五十周年祝賀会に併せてクラス会を開催します。祝賀会会場で会いましょう。連絡先は下記の通りです。ご出欠に関わらず事前にメールをいただければ幸いです。

高村 定憲 高村法律事務所 (連絡先/ taka-law@sea.plala.or.jp)

★今年も「鶴ヶ丘祭」に出展します

2010年9月11日(土)・12日(日)にて開催される鶴ヶ丘祭に同窓会も参加します。ぜひお立ち寄りください。

★吹奏楽部 第38回定期演奏会

日時:平成22年6月18日(金) 17:30開場 18:00開演

会場:調布市グリーンホール(京王線調布駅 南口前)

皆様のご来場をお待ちしています!

維持会費納付のお願い

同窓会は「維持会費」が運営上の大きな支えになっています。ぜひともご理解いただきご支援の程、よろしくお願いいたします。(平成17~21年度卒の方は不要です)なお、維持会費は年度ごとをお願いしておりますが、あくまでも会員各位のご好意を頂くものです。従って、納入されなくても、後で請求があるとか、過去にさかのぼって請求されることは一切ございませんので、誤解のないようお願いいたします。

お振込先

口座名称:日本大学鶴ヶ丘高等学校同窓会

口座番号:00150-4-613083

維持年会費:3,000円



日本大学鶴ヶ丘高等学校同窓会

50周年 | おめでとうございます (卒年順)

か
な
か
矩勝建設株式会社

昭和三十年卒業 三年C組

代表取締役 **阿部 勝太郎**

東京都狛江市和泉本町二一〇一六
TEL〇三三三四八九六八五一
FAX〇三三三四八九一三三二八

株式会社モリタケ工務店

昭和四十七年卒業 三年B組

代表取締役 **森田 猛**

東京都中野区江原三二一四一〇二
TEL〇三三三九九八二〇〇〇七
FAX〇三三三九九八二〇〇〇九

クライム

昭和五十二年卒業

不破 晋一

<http://www.climb.jp.com/book/>

東京都知事免許⑨第30022号
東京都宅地建物取引業協会会員
有限会社秀明商事

昭和三十四年卒業

代表取締役 **根岸 辰行**

取引主任者
東京都杉並区永福四一三二七シユウメイハイツ〇二
TEL〇三三三三三二五一九六八四
FAX〇三三三三二五一九六八七

月島デンタルクリニック

昭和五十三年卒業

院長 **糸川 良輔**

診療所◎東京都中央区月島二一五一一六
清月ビル二階
TEL〇三三三三三二一〇一六五

昭和四十年卒業
木村 国臣

山岸設計事務所

昭和五十三年卒業

山岸 祥一郎

神奈川県横浜市中区山手町二七二一〇一三〇八
TEL〇四五二二一〇一〇一六二
FAX〇四五二二一〇一〇一六二

株式会社飯田

昭和五十五年卒業 三年F組

宅地建物取引主任者
代表取締役 **飯田 哲司**

本社◎東京都中央区日本橋浜町二一六一六
ハウスジェントウル四〇二
TEL〇三三三三二四九一〇七一
FAX〇三三三五六四〇一六〇七五
歌舞伎町パークینگ◎東京都新宿区歌舞伎町二四〇一五

日本大学法曹会所属
高村法律事務所

昭和五十四年卒業 三年E組

弁護士 **高村 定憲**

民事一般、倒産、クレジットサマシ金、労働、不動産関係 親族相続、
会社関係、刑事事件、各種法律相談
東京都杉並区荻窪四一三二三AKオキタビル五階五〇号室
TEL〇三三三三九八八八八〇
FAX〇三三三三九八八八九〇

昭和五十五年卒業 三年K組
川村 喜久

望月工業株式会社

昭和五十五年卒業 三年K組

代表取締役 **望月 彰**

本社◎東京都渋谷区本町五十四二一〇
TEL〇三三三三七七三三三八七
FAX〇三三三七七三三三八七

昭和五十五年卒業 三年H組
阿部 栄介



昭和五十五年卒業 三年G組
矢嶋 宏行

昭和五十五年卒業 三年G組
安井 誠

千葉県柏市柏七十七三
TEL090-1321-3122

庭木庭石・造園設計・施工・管理
株式会社小関田中園
昭和六十三年卒業
専務取締役 **田中 則雄**
東京都練馬区石神井台八ー八ー四一
TEL03-3592-9052
03-3592-0262
FAX03-3594-1800

学校広報・プロモーション事業
株式会社アクセスコーポレーション
代表取締役 **中野 博昭**

本社◎東京都港区赤坂八ー四ー一四
青山タワープレイス七階
TEL03-3541-3300
FAX03-3541-3304

三井住友海上火災保険株式会社 三井住友海上きらめき生命
ソニー生命保険株式会社
株式会社三光リンクホールディングス
昭和五十八年卒業
代表取締役 **小市 誠**

東京都渋谷区代々木二ー二ー三ー一 一ー一六六号
TEL03-3535-1350
FAX03-3535-1350
在学中は
ラグビー部でした。

人材採用広報・人材サービス派遣 紹介事業
株式会社アクセスヒューマネクス
代表取締役 **富澤 一憲**

本社◎東京都港区南青山一ー一ー一
新青山ビル西館一五階
TEL03-3541-3300
FAX03-3541-3301

株式会社
オリエンタルバンケットサービス
代表取締役 **山本 絹子**

東京都渋谷区道玄坂一ー一七ー九
TEL03-3462-1381

データ処理・メイリング印刷
トッパン・フォーム
プロセス株式会社

東京都江東区新砂二ー三ー一五
TEL03-3615-3391
FAX03-3615-3390

日本大学校友会
日本大学 櫻門三崎倶楽部

会長 **中上 亮三**
幹事長 **須磨 正則**

櫻門 **N.**
三崎倶楽部
阿部 栄介
鈴木 謙
永野 泰
安井 誠

この秋

同窓会会則 昭和54年4月8日 制定/平成2年7月14日 改訂/平成12年6月10日 改訂/平成17年6月4日 改訂/平成19年6月2日 改訂/平成20年6月7日 改訂

■第1章 総則

- 第1条** 本会は日本大学鶴ヶ丘高等学校同窓会と称す。
第2条 本会は事務局を日本大学鶴ヶ丘高等学校内におく。
■第2章 目的および事業
第3条 本会は会員相互の親睦向上を図り、併せて母校の発展に協力することを目的とする。
第4条 本会は、前条の目的を達成するために必要な事業を行う。
 2.前項の事業の内容は、細則をもって定める。

■第3章 会員

- 第5条** 本会は次の会員で組織する。
 1.正会員
 ア.日本大学鶴ヶ丘高等学校を卒業した者
 イ.日本大学鶴ヶ丘高等学校に在学した者で、幹事会に入会の申請をして承認を得た者
 2.特別会員
 日本大学鶴ヶ丘高等学校の現任教職員
第5条の2 本会が保有する会員情報については、本会は、個人情報保護管理者を置き、これによって、会員情報の漏洩、滅失又は毀損の防止その他の安全管理のために必要且つ適切な措置を講じ、個人情報保護法その他の法令に従うものとする。
 2.本前項の個人情報保護管理者は、会長をもってこれに充てるものとし、個人情報保護管理者は、その職務を補佐する委員会(これを会員情報保護管理委員会という。)を組織し、その各委員を指名する。
第6条 正会員は細則に基づく維持年会費(以下、会費という。)を納めなければならない。会員はその氏名、住所、勤務先、その他に変更を生じた場合は別紙により、本会事務局に届けなければならない。
第7条 会員で本会の秩序を乱し、または体面をけがす等の行為があったときは役員会の決議により、これを除名することができる。

■第4章 組織

- 第8条** 本会の運営は役員会と学年幹事会をもって行う。
 1.役員会とは、会長、副会長、幹事長、副幹事長、書記、副書記、会計、副会計、会計監査、副会計監査で構成する。但し、必要に応じて名譽会長、顧問、相談役も同席することができる。
 2.学年幹事会とは各卒業年度より選出された者から構成する。
 3.名譽会長、顧問、相談役を置くものとする。

■第5章 役員・学年幹事・名譽会長・顧問及び相談役

- 第9条** 本会は、役員として、会長、副会長、幹事長、副幹事長、書記、副書記、会計、副会計、会計監査、副会計監査を置くものとする。但し、副会長、副幹事長、副書記、副会計、副会計監査の増減は役員会により変更できる。
 2.第1項但書に基づき増員された当該役員の地位は仮のものとし、第3項による総会の承認を得たときから正式な地位に確定するものとする。
 3.第1項但書に基づき役員会により当該役員を増減したときは、その後最初に開催される総会に諮り承認を得なければならない。
第10条 本会は日本大学鶴ヶ丘高等学校校長を名譽会長とする。
第11条 役員は、正会員の中から、全役員の過半数の賛成をもって候補者を選出し、第16条にしたがって総会により決定する。
 2.顧問は日本大学鶴ヶ丘高等学校教職員より選出する。
 3.相談役は必要に応じて日本大学鶴ヶ丘高等学校教職員及び正会員より選出する。
 4.学年幹事は原則として各卒業年度の生徒会役員または卒業生より若干名を選出する。

- 第12条** 役員は任期は3年とする。ただし、再任をさまたげない。
第13条 役員は次のとおり定める。
 1.会長は本会を代表し、会務を総括する。
 2.副会長は会長を補佐し、事故あるときはその職務を代行する。
 3.幹事長は役員を総括する。
 4.副幹事長は幹事長を補佐し、幹事長に事故あるときはその職務を代

- 行する。
 5.書記は本会の事務を処理する。
 6.副書記は書記を補佐し、書記に事故あるときはその職務を代行する。
 7.会計は本会の収支事務を処理する。
 8.副会計は会計を補佐し、会計に事故あるときはその職務を代行する。
 9.会計監査は年1回以上会計の監査を行う。
 10.副会計監査は会計監査を補佐し、会計監査に事故あるときはその職務を代行する。
 11.顧問及び相談役は役員会等から意見を求められた時は、それに応ずることが出来る。

■第6章 会議

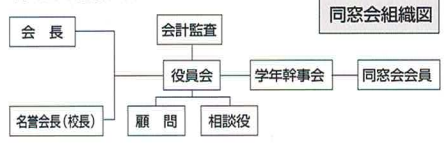
- 第14条** 本会の会議は次の通りとする。
 1.定期総会は年1回、会長がこれを招集し、年度末の収支決算、新年度の事業計画ならびに予算、その他必要と認められる事項の審議、決定を行う。
 2.臨時総会には必要に応じ、会長がこれを招集する。
 3.本条第1項及び同条第2項で定める招集の通知方法は、各会員宛ての書面をもって通知することを要せず、5日前に会議の目的たる事項を示した電子公告(ホームページ)をもって通知すれば足りる。但し、電子公告による通知を為すことができない事故その他已むを得ない事由を生じたときは、5日前に会議の目的たる事項を示した読売新聞をもって通知すれば足りる。
 4.役員会及び幹事会は幹事長が会長にはかり、これを招集し、会務の審議及び執行にあたる。
 5.役員会及び幹事会で決定した重要事項については会長の承認を得て総会において事後報告する。

- 第15条** 総会の議長は役員会で定める。
第16条 総会の議決は出席会員の過半数で決定し、賛否同数の場合は議長が決定する。
第17条 本会則は総会出席者数の3分の2以上の同意がなければ変更することができない。
 2.本会が定めるべき細則の制定または改正は、役員会の2分の1以上が出席した役員会において、出席役員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決すところによる。

■第7章 会計

- 第18条** 本会の資産は次のとおりとする。
 1.会費
 2.資産から生ずる収益
 3.事業に伴う収益
 4.寄付金および補助金
 5.その他の収入

- 第19条** 本会の経費は前条の資産をもってこれにあたる。
第20条 本会の会計年度は毎年4月1日より、翌年3月31日までとする。
■細則
 1.本会の会則第6条に規程する会費のうち初回分(5年分として)を卒業時に10,000円とする。
 2.卒業後5年を経過した正会員は会費として毎年3,000円の維持費を納入する。
 3.定期総会は毎年1回とし、原則として、6月第1土曜日に開催する。
 4.この会則は、平成20年度の定時総会における承認を得て、平成20年6月7日から施行する。



平成21年度同窓会活動記録

- | | |
|--|---|
| 2009年 4月 6日(月) 母校 入学式参列 | 2009年 10月 3日(土) 総会(母校大会議室にて開催) |
| 2009年 4月11日(土) 役員会、学年幹事会
決算、予算、総会準備等 | 2009年 10月17日(土) 役員会、学年幹事会
委員会の設置等 |
| 2009年 4月11日(土) 新旧役員慰労会
明大前にて開催 | 2009年 11月21日(土) 役員会
卒業記念品、会計報告等 |
| 2009年 5月16日(土) 役員会、学年幹事会
総会準備、五十周年記念事業等 | 2009年 12月19日(土) 役員会
卒業記念品、五十周年記念事業等 |
| 2009年 5月23日(土) 桜園会、総会参列 | 2010年 1月 4日(月) 五十周年記念事業委員会 |
| 2009年 5月30日(土) 役員会、学年幹事会
総会準備、五十周年記念事業等 | 2010年 1月23日(土) 役員会
卒業記念品、会報検討、会計報告等 |
| 2009年 6月20日(土) 役員会、学年幹事会
総会準備、五十周年記念事業等 | 2010年 1月23日(土) 新年会 (新宿にて開催)
校長、教頭、事務課長をお迎えし
20名出席 |
| 2009年 6月24日(水) キャリアガイダンスに講師派遣 | 2010年 2月10日(水) 第一回会報誌編集会議 |
| 2009年 7月11日(土) 役員会、学年幹事会
同窓会組織、運営に関する検討等 | 2010年 2月13日(土) 役員会
会報検討、五十周年記念事業等 |
| 2009年 8月 1日(土) 役員会、学年幹事会
同窓会組織、運営に関する検討等 | 2010年 2月20日(土) 桜園会主催 謝恩会参列 |
| 2009年 8月29日(土) 役員会、学年幹事会
鶴ヶ丘祭出展の準備 | 2010年 2月23日(火) 第二回会報誌編集会議 |
| 2009年 9月11日(金) 鶴ヶ丘祭 出展準備 | 2010年 2月27日(土) 卒業式予行演習にて同窓会PR |
| 2009年 9月12日(土) 鶴ヶ丘祭 出展 | 2010年 3月 1日(月) 母校 卒業式参列 |
| 2009年 9月13日(日) 鶴ヶ丘祭 出展 | 2010年 3月14日(日) 役員会
会報検討、五十周年記念事業等
新宿にて開催 |
| 2009年 9月26日(土) 役員会、学年幹事会
鶴ヶ丘祭出展の反省会、総会準備等 | ※場所を明記していない役員会は母校にて開催 |

平成21年度 同窓会決算報告書 自平成21年4月1日 至平成22年3月31日

◆収入の部

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差異	摘要
1.入会金	3,800,000	3,500,000	△ 300,000	350名
2.維持会費	150,000	69,000	△ 81,000	23名
3.特別会費	0	206,000	206,000	新卒(30名)慰労(14名)
4.受取利息	3,000	784	△ 2,216	
5.寄付金	20,000	15,000	△ 5,000	新年会
6.雑収入	0	0	0	会報協賛広告等
(A)当期収入合計	3,973,000	3,790,784	△ 182,216	
前期繰越収支差額	10,218,024	10,218,024	0	
(B)収入合計	14,191,024	14,008,808	△ 182,216	

◆支出の部

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差異	摘要
1.事務局費	80,000	48,482	△ 31,518	事務用品、コピー代等
2.通信・運搬費	80,000	49,790	△ 30,210	役員会・幹事会案内
3.会費	20,000	17,948	△ 2,052	役員会・幹事会等
4.支払い手数料	30,000	6,580	△ 23,420	新卒幹事報酬出給
5.慶弔費	100,000	124,960	24,960	桜園会総会記念品
6.ホームページ関係	430,000	203,175	△ 226,825	制作費、webシステム料
7.個人情報管理費	450,000	395,067	△ 54,933	名簿データベース管理費用
8.印刷費	300,000	66,150	△ 233,850	総会資料
9.総会案内等郵送料	800,000	487,927	△ 312,073	往復ハガキにて実施
10.総会案内立書費	0	0	0	印刷(総会挨拶状等)
11.総会費	0	0	0	懇親会なし
12.文化祭費	100,000	108,210	8,210	出展、生徒会に果品提供
13.献送迎会	0	0	0	開催なし
14.新年会	0	198,965	198,965	新年会、慰労会
15.卒業記念品	500,000	453,600	△ 46,400	スポー・ツタール(600枚)
16.クラブ活動奨励金	300,000	380,251	80,251	全編 関東大会等出場時
17.予備費	200,000	0	△ 200,000	
(C)当期支出合計	3,390,000	2,541,105	△ 848,895	
(A)-(C)当期収支差額	583,000	1,249,679	666,679	
(B)-(C)次期繰越収支差額	10,801,024	11,467,703	666,679	

校歌

Tempo di marcia ♩ = 112

作曲 忠夫 出村 口田 英夫

1) は て し な き る あ お き お そ らい は ば た く
 2) わ て し る か る あ お き お そ らい は ば た く
 3) み は し る か る あ お き お そ らい は ば た く

は し る か る あ お き お そ らい は ば た く
 つ た く あ に ほ お う せ い し ん の り そ あ お び て
 つ は た く あ に ほ お う せ い し ん の り そ あ お び て

たい か ら か に あ ま け り ゆ く あ あ
 い か ざ と も あ に は と は ぐ み ゆ か え ん

われら にほんだいがくつるーがおか つるがおか

※昭和46年に制定

- 一、果てしなき 碧き大空
 羽ばたくは 銀の鶴
 青春の理想仰ぎて
 高らかに 天翔りゆく
 あゝわれら 日本大学
 鶴ヶ丘 鶴ヶ丘
- 二、湧き出づる 泉かゝよい
 若桜 ゆたかに匂う
 紅ぞ われらが生命
 いざとも 育みゆかん
 あゝわれら 日本大学
 鶴ヶ丘 鶴ヶ丘
- 三、見はるかす 芙蓉の高嶺
 そらり立つ 白堊の母校
 諸木々の みどり葉さやに
 むつみあい 永遠に栄えん
 あゝわれら 日本大学
 鶴ヶ丘 鶴ヶ丘

会報誌題字

『いずみ』について

今回の創設50周年記念号の発行にあたり、本誌のタイトルを「いずみ」とさせていただきました。この題字は母校の所在地である和泉をモチーフに、日鶴カルチャーで育った多くの同窓生の方々が、泉のように社会に湧き出ていき、相互に切磋琢磨しながら活躍していく。そんな社会性をもった基盤である同窓会の役割を意識して付けさせていただきました。これからもこの泉がより大きくなっていくのを皆様とともに見守りたいと思います。